校長研修だより９８

いいとこ取り

～新年度のあいさつにかえて～

2023・4・6　重枝 一郎

日本の教育は，疲弊している気がする。何らかの新しい用語が出ては飛び交い，その第一人者が現れては消えていく。どうすればよいかわからず迷走する。中高の 6 年間で行われる教育が，生徒の先の未来につながっているのか，役立っているのかという問いがいつも突き付けられる。

社会の変化に敏感な人は言う。「今の学校は，もしかしたら生徒のためにも，社会のためにも役立っていないのかもしれない。時に弊害ですらある時を感じる。理由は簡単で，時代に合っていない，社会の変化に全く追いついていないと思う」と。

毎日一生懸命取り組んでいる私たちからすると，悪口を言われているような気がする。

何を意識して教育をするべきなんだろう・・・。

2050 年。今意識しなければならないのは**「2050 年」**と言われる。確かに，昔から，今の生徒が親世代になった時の世の中については多少意識することはあった。しかし，社会の急激な変化を意識することはなかった。あまりにも漠然としていた。今の社会の変化は，とても感じる。身近な若手に対してもとても感じる。確実に変化している。今の中高生が，自分の親の年齢になるころ，生き抜ける力をつけられるか。そのためには，私たち大人が社会の常識や思い込みに惑わされないことが大切になる。つまり今の学校が何のために存在しているのかという視点がないと，根拠のない常識や通用しなくなった過去の成功体験に縛られたままということになる。

振り返ると，私自身 1 学級 40 人というシステムの中で教育を行ってきた。40 人が一斉に勝手なことをしだしたら授業は成立しない。だから意識的，無意識的に勝手な言動をしない従順なおとなしい人間をつくることをしていたところはある。それは，社会に出ても通用する力で，頑張る労働者を育てる社会の求めるシステムでもあった。それが国や会社の発展に役立つと考えられていた。「言えない，言わない，言わせない」人間を育成していたともいえる。これではいつまでたっても自立しない従順な人間を育てることしかできない。

これからの若者は，日本の社会が求める人材と世界が求める人材の両面を意識することが大事になると思う。日本社会が優れているのは，人の能力を均一化しているところである。日本では読み書き計算ができない人はほとんどいない。また，人々のモラルが高いのも誇れるところである。ただ，日本の教育ではテストでいい成績をとる生徒は育てられるが，クリティカルシンキングの力高める教育は弱いと言われる。生徒は議論をあまりできないし，主体性もあまりないと言われる。**そのような学校には多様性（ダイバーシティ）もないと言われる。**

また，**若者にとって失敗は貴重な経験である。**人は失敗から多くのことを学ぶ。生徒が将来社会に出たとき，円滑な人間関係築けるようになるためにも，あるいは組織の運営や意思決定に携わる立場になったときに力を発揮できるようになるためにも，失敗は若いうちに経験しておくべきだと思う。

これからの本校について考えると，本校で身に付けるべきなのは，**「知識・スキル・マインドセット」の３点セット**と考える。まだ一般的な日本の学校は，やはり知識・

スキル・偏差値の重視になっている。でも世界が求めるのは，主体性があり，自由でクリティカルシンキングができ，多様性があり，それを受け入れるオープンマインドをもつ人材である。このようなマインドセットを重視している世界の学校では，生徒に「自分は何者か」に気づかせようとする。

本校の教育の方向感として，**「日本と世界のいいとこ取りが最適解」**と考えていきたい。日本のよさの平均的な能力を高める強みを「知識・スキル」の獲得につなげ，世界によさの自主性・主体性，様々なことに挑戦するマインドセットも重視する。具体的には，先生方それぞれの多様性がある。本日の「学校経営方針、リーフレット」を先生方のマインドセットに役立ててほしい。マニュアルを求められてもそれはない。今，先生方が実践していることを「日本と世界のいいとこ取り」という考えをもって取り組むだけである。ただ，一人ではできないので，いろんな同僚と共有はしてほしい。それが研修にもなる。

とりあえず，**「失敗しても大丈夫」という心理的安全性を醸し出す**ところから・・・。

2023 年度も新しい経験をたくさんしていきましょう！！